

総合討論



涌井 農家は、農業生産物だけを作っているのではない。社会に共通する利益を、そこに住んでくださるることによってもたらしている。

会場 国民が自然の恵みに対するコストをどう払うか。一つは消費者として直接負担すること。もう一つは間接的に税金だろう。

保田 経済という言葉は「経済民」を縮めたもの。世の中を**経**め、**済**を救う。経済は「儲け」という意味では必ずしもない。

豊岡の環境経済戦略には「健康」という視点が抜け落ちていると感じている。

会場 私たちが、売るために高い米を作っているというの**は大間違い**。儲けるための環境経済にしたなら、コウノトリはバチを当てると思う。

儲からなかったらやめるような農村では困る。死んでも農村を守らなきゃいけない。儲かる仕組みは、国民が、政府が、世界が後からついてくる。

会場 もっと啓発活動を進め、私たちコウノトリ育む農法に**取り組む農家が肩身の狭い思いをしなくてもいいように**、そういう空気をこの豊岡につくってほしい。

総合討論



大迫 郷公園はスペシャリスト集団。どこかでコウノトリを野生復帰させたいとなれば、現在の技術と知識をもってすればできる。

現在100羽いる飼育個体の中から、**まずはなるべく多様な家系**のものを必要な数だけ残し、**あとの個体は、国内外でのメタ個体群確立のために**、**どんどん活用していきたい**。

会場 今年4月1日にコウノトリが飛来した。その時の住民の喜びは大変なものだった。

何とかコウノトリが来てほしいと、**環境創造型農業などを続けている。ぜひ、わがまちに!**

涌井 リオ・デ・ジャネイロサミットで、「皆さんは国の代

「新田や八条のようにたくさんの生きものがある地域が、豊岡に広がり、豊岡から兵庫県に、兵庫県から日本に、日本から世界に広がればいいな」

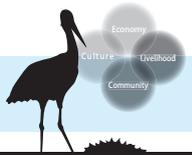


表である前に、子どもの親でしよ。本当に子どもを持つ身の立場で**地球の未来を**考えてくれているの? **これは、一体誰のための会議なのでしょう**か」と演説した少女の言葉がある。

林 次回のかいぎでは、「子ども・未来」分科会だけでなく、「お年寄り・未来」もつくる必要がある。今後、**高齢者のパワーがコウノトリの未来を拓く**のではないか。

中貝 「命への共感に満ちたまちづくり条例」を検討中。議論の中で浮かび上がった大切なことは、「**命は限りがある**」そして「**命はつながっている**」ということ。この2つをベースに、もう一度豊岡のまちづくりを考えてみたい。

保田 「野生復帰がもたらすもの」をテーマに考えてきた。先ほど、子どもたちが決意表明してくれたが、**コウノトリが飛ばなかったら、あの決意表明はなかったのでは?**



コウノトリ宣言を読み上げた西浦拓也さん(豊岡高等学校2年)のことは

僕が、コウノトリが舞い降りるための活動に参加し始めてから10カ月。活動に関わっていく中でいろんな出会いがあり、豊岡にはこんなに頑張っている方々がいらつしゃるのだと思いました。活動が広がるにつれ、但馬の人、但馬の自然の良さを伝えていきたいと思うようになりました。自分一人の力は小さいけど、地元、兵庫、そして全国とつながっていくために、僕は活動に誇りを持ち続け、この豊岡にさまざまな命が溢れていることの素晴らしさを伝えていきたいと思います。コウノトリ野生復帰の今後の目標とする姿を、メッセージとして読み上げます。



西浦拓也さん

第4回コウノトリ未来・国際かいぎメッセージ『コウノトリ宣言』

コウノトリと共に生きる暮らしを歩み始めた私たちは、自然環境と文化環境の保全・再生・創造を目指し、さまざまな分野で多様な取組みを進めてきました。

他方で、本国際かいぎの直前に名古屋で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議(CBD/COP10)」において名古屋議定書が合意を得、採択されるなど、生物多様性保全の動きが世界的にも広がっています。

そうした動きを確固たるものにするため、国内外との連携をさらに推し進めながら、次の5つを重点項目に今後の目標を描きます。

1. コウノトリ

コウノトリ保護の原点であった「生きものを愛する心」をもう一度思い起こしながら、コウノトリの定着と日本における地域個体群の形成に向けて市民と行政が連携しよう。そして、国内外のさまざまな地域とも手を携え、コウノトリが健全に暮らせる生息地を広げていこう。

2. 環境創造型農業

コウノトリと共に生きるために豊岡で始められた環境創造型農業は、農産物とともに多くの生きものを育む本来の農業の姿、かつての農業を現代に蘇よみがえらせるものであると言えます。農の営みや農地が持つ多様な価値を、生産者、消費者をはじめ多様な主体が共に認識し、「生きもの」や「いのち」を見つめる農業を拡大させよう。

3. 環境経済

環境経済は、環境行動と経済活動を結びつけることで環境への働きかけを暮らしの一部に位置付け、環境行動に推進力を持たせようとする挑戦です。環境から経済を生み出す具体的ないくつかの芽が育ってきました。その実例を積み重ねながら、もう一歩踏み出し、生み出された経済を再び環境に投資する、本当の意味での環境と経済の共鳴関係を築きあげよう。

4. 子ども・未来

子どもたちは社会の未来です。未来に向け、教育の中で、また地域社会の中で、子どもたちが生きものと共に暮らす感性を養える機会を数多く創出しよう。また、子どもたち同士の内外の交流をさらに活発化させることで、取組みの輪を広げていこう。

5. 市民

コウノトリ野生復帰の取組みには、具体的な行動が必要であり、市民はその重要な主体です。取組みの中で生まれてきた市民と行政の連携姿勢をさらに深め、真の協働を実現しよう。そして、その協働を他の分野にも広げていこう。市民は、各地で行われているそれぞれの活動を尊重し、互いに応援し合いながら進もう。



100人の子どもたち



JR西日本社長
佐々木隆之さん



まりほ
鞠穂えりなさん



柳生 博さん

多くの方々に、かいぎを盛り上げていただきました

「野生復帰がもたらすもの」とは何か。それは、「コウノトリを通じて『気付き』『考え』『行動する』動きが始まった」まさにそのことにあるのかも知れません。豊岡で起きた気付きや行動が、今、大きく広がりつつあります。この国際かいぎの重要なテーマとなった『つながる』を加え、さらなる前進を続けます。